

第 6 号

こんにちは 青葉のまちセンです



編集・発行 青葉まちづくりセンター
青葉町 3 丁目 (青葉会館内)
8 9 2 - 8 1 7 7 ・ FAX 8 9 2 - 6 6 1 3

まちづくりセンター発の情報紙です。知りたいこと、知らせたいことはありませんか? ご意見・ご感想・投稿大歓迎。よろしくをお願いします。

変わりゆく青葉の街並み

市営住宅の建て替えが、着々と進んでいます。10月上旬に本移転が完了したC1号(10階建て)に続き、11月下旬にはC4号棟・5号棟でも入居を開始。C団地の建て替えは、これで完了します。

一方、今年から建て替えが始まったD団地では、まず北西側の6棟が取り壊され、いったん更地となりました。厚別青葉通(バス通り)に面していた擁壁もなくなり、街並みの雰囲気が明るくなっています。この一角では、引き続き新棟の建設が始まり、来年10月末までに6階建てと3階建てが1棟ずつ完成する予



更地になったD団地の一部

定です。また、来年にはまちづくりセンターを挟む東側7棟が、翌年には南西側3棟がすべて取り壊されます。その跡に建てられる新棟(9階建て3棟を含む5棟)の建設工事は、平成21年度までに完了。青葉会館の建て替えも、それに合わせて行うことが目指されています。

なお、C団地北西角の空き地(区役所に一番近いところ)は、福祉施設の建設予定地となっていますが、具体的な計画については、まだ決まっていません。

今年は糖尿病がテーマ



真剣な眼差し(地域健康教室)

青葉地区でも関心の高い健康づくり。今年は、物井栄美子さんをはじめとする健康づくりリーダーの発案で、関連する催しが「糖尿病」をテーマにシリーズ化されています。

その催しとは、健康づくりリーダーによる課外実習(医師と管理栄養士の講

演)(10/5) 厚別区と医師会による地域健康教室〔講演〕(11/8) 健康あおば応援隊による料理教室(12/2) 自治連によるストレッチ体操(18年2月の予定)の4つ。11月8日(火)の地域健康教室では、「愛(eye)のある目の話」と題して、社会保険総合病院眼科部長の鷹見 公貴先生による講演があり、約50人の参加者が真剣に耳を傾けました。

12月2日(金)の料理教室では、区民センターを会場に、生活習慣病予防のための献立を取り上げます(定員30人。参加費300円)。まだ若干の余裕がありますので、興味のある方はまちづくりセンターへお問い合わせを。

まちセンにコワイお客様

10月31日(月)、まちづくりセンターに大勢のお化けがやって来ました。



「トリック・オア・トリート！」

この日はハロウィン(キリスト教の諸聖人の日『万聖節』〔11/1〕の前夜祭)。秋の収穫を祝い、悪霊を追い出す祭りの日で、キリスト教の国々では、衣装した子どもたちが「Trick or treat! (お菓子をくれないといたずらするぞ)」と言って近所の家を回ります。

青葉児童会館(佐藤 理恵館長)では、これにちなんで数年前から仮装パレードを行っており、子どもたちに人気の行事となっています。思い思いの仮装に身を包んだ子どもたちは、二手に分かれて児童会館を出発。まちセンには、30人弱のお化けが「来襲」しましたが、ささやかなお菓子のプレゼントで、無事に全員「退散」となりました。

あなたの?に答えます

シリーズ・まちセンの謎

所長のお話

「まちづくりセンター所長」というのは、市役所の課長職です。一口に「課長職」といっても、実態はさまざま。機構上は部下がいない課長もいれば、約400人もその部下を抱える課長もいます。

まちセン所長の前身は「連絡所長」。この職は、昭和47年の区政施行に伴って設けられましたが、当初は係長職で、それまであった支所・出張所を区役所に集約するための過渡的なものでした。しかし、地域に密着した存在として重要性が再認識されるようになり、現在では、地域でのまちづくりを支えるという、大切な役割を担っています。

【所長のひとり言】

年賀状の時期を迎え、プリンターを買い替えました。あらためて驚かされるのは、モノの価格差。近所の大型店とインターネット通販とでは、2割もの開きがあります。「賢い消費者」にはありがたい話ですが、街の小売店には死活問題。安くあがっても、手放しては喜べない複雑な心境です(部)